

教育・研究図書有効活用プロジェクト

公益財団法人日本科学協会が日本財団の助成により実施している「教育・研究図書有効活用プロジェクト」は、図書による国際理解と友好交流の促進を目的に、中国への図書寄贈プロジェクトとして1999年度に立ち上げた事業である。

その後、2004年度には中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、2008年度には中国全土の青年を対象とした「作文コンクール―感知日本―」を立ち上げるなど広範な事業展開により、日中相互理解と友好交流の促進、学術研究の振興を図っている。

1. 中国の大学等への図書寄贈

1999年度から実施している事業で、出版社、企業、大学・研究機関、個人など日本の各方面から提供された図書を選定・調整のうえニーズに応じて海外の大学・研究機関等に寄贈するというものである。現在、中国の35大学・1研究機関（10省4市2自治区）を対象を絞って実施しているが、これまで14年間で寄贈した図書は300万冊を超える。

※図書寄贈累計：3,005,475冊（1999年度～2013年度）

2. 「笹川杯全国大学日本知識大会」

中国の大学の日本語学習者を対象とした“日本”に関する知識大会で、日本知識や日本語能力の検証の場となる大会を全国規模で開催することにより、日本理解の深化と日本語教育の振興を図るといものである。

2004年度に「笹川杯日本知識クイズ大会」として立ち上げて以降、中国の大学の日本語学習者数の増加と大会開催に対する大学側の要望に応える形で「大会」を発展させ、2005年度、2006年度は2地域（黒龍江省、華東地域）、2007年度は3地域（黒龍江省、華東地域、吉林省）、2008年度以降は2地域（東北地域、華東地域）、2010年度は3地域（東北地域、華東地域、西南地域）で大会を開催した。

2011年度以降は、開催のすそ野を中国全土に拡張して全国規模で開催することとし、これに併せて大会名称も「笹川杯全国大学知識大会」と変更した。さらに、成績優秀者を対象に日本招聘プログラムを実施し、日本の大学生等との交流、訪問見学等を通じて日中間の相互理解の深化と友好意識の高揚を図っている。

※参加大学累計：延べ222大学、参加選手：666名（2004年度～2011年度）

3. 「笹川杯作文コンクール」

日本科学協会、中国青年報社、人民中国雑誌社が、“日本”をテーマに、中国全土の青年を対象として2008年度から開催しているもので、使用言語により“中国語の作文コンクール”と“日本語の作文コンクール”の2つのコンクールを並行実施し、広範な青年層の対日関心の喚起、理解の深化、日本語学習意欲の高揚を図っている。

これまでに中国全土（台湾、香港、マカオを除く22省、5自治区、4直轄市）から38,967点の作品応募があり、応募者のすそ野はほぼ中国全土に及んでいる。